

## 県議会と県民との意見交換会 大隅地域（概要）

開催日時 平成23年11月27日（日） 午後2時～午後4時  
開催場所 鹿屋市中央公民館 1階集会室（鹿屋市北田町）  
参加者 一般県民88名，県議会：金子議長等20名  
内容 議会活動等説明，意見交換（質疑応答等は下記のとおり）

### 意見交換で出された質疑の内容（概要）

#### 県民 A

大崎町は平成の大合併で，合併せずに現在単独のままである。曾於郡8町のうち1町だけ残った。1郡1町であるので，曾於郡という「郡」は，削除できないのか。

県内でも各地で小中学校の統廃合が進んでいる。今までに廃校になった小中学校の鹿児島県の全体の数，件数はどのくらいか。

その中で再活用，企業誘致等で現在活用されたものがどのくらいあるか。ビデオで県議会の質疑応答の紹介があったが，1人当たりの質問の時間はどのくらいか。

#### （下鶴議員）

「郡」の削除ということであるが，この「郡」というのは，国の法律で定められており，地方自治法と思うが，法の改正が必要になるかと思うので，残念ながら県の方では手が出せない状況かと思う。

県議会の質問時間については，会派の代表として行う代表質問と議員が個人として行う一般質問がある。代表質問が2時間，一般質問は60分となっている。これは議員の質問時間と知事はじめ当局の答弁，答えをあわせた時間となっており，それぞれの時間枠が設けられている。

#### （松田議員）

全県的にも小中学校の統廃合が進んでいるが，これはどうしても子どもの数が減っている中で検討しなければならない大きな問題だと思う。

例えば廃校になった校舎をどのようにするかということで，視察をした中で種子島の方では介護施設になっている例や，いちき串木野の方ではNPO法人が無償貸与を受けて，いわゆるフリースクールとして活用されている例がある。今，県全体の数字が何件だということは申し上げられないが，同じような意識でしっかりと進めていきたいと思っている。

#### 県民 B

県の地域防災計画と言う話があったが，今度の東北の未曾有の大災害のようなものが大隅半島で発生した場合，指揮・命令系統というのは鹿児島県の本庁でそれが可能なのか。

#### （桑鶴議員）

県の地域防災計画というのは4つの柱から構成されている。

一つは土砂災害であるとか，大雨の災害であるとか，これらのものに対する一般災害対策。もう一つは，今最も注目を集めている原子力災害対策。もう一つは地震，津波，これらに対する災害対策。そして桜島，新燃岳諸々の火山災害対策。

その対応，指揮系統であるが，一義的には危機管理局が一元的に対応するが，ただ地域では，県内7つの地域振興局に分かれており，大隅においては鹿屋に地域振興局長を中心にその対応を図る体制を作っている。

## 県民 C

これは要望であるが、このような意見交換会を10万都市以上当たりは、年1回やっていただければありがたい。県政と県民との繋がりが大事だ。大隅半島は、ごらんのように入線もなければ、高速道路もいつできるかわからない状態である。交通網の整備をできるだけ早くやっていただきたい。野生生物の被害がどんどん増えている。自分の孫が農業大学に行くようになって、後継者ができたわけだが、こういう人達が将来農業をする際に、せっかく作ったものを、イノシシ、サル、シカにやられてしまう。この問題に全般的に取り組んでもらいたい。

### (まえの議員)

高速道路の関係、交通網であるが、曾於・弥五郎から鹿屋までについては、今鋭意工事が進められており、約18キロあるが、用地買収率はほぼ97%ぐらいまで進んでいる。国土交通省の話では、26年度中に鹿屋まで開通させるということである。

また、鹿屋からインターチェンジまでだが、同じく26年度で開通させる。これは鹿児島県の方で串良のインターチェンジまで、鹿屋市の札元・朝日原から約5キロについて、今整備を鋭意進めていて、高速道路の開通に合わせて、その自動車専用道路も完成させるということになっている。

504号については、この整備も今、輝北地区、諏訪原地区、福山地区で、高隈まで出る工事を行っている。輝北の総合支所の先の方は、25年度には開通するという事である。

### (西高議員)

新幹線効果というのが、鹿児島そして指宿、非常に経済効果が出ている。

その中で私達の地域は、アクセス網の整備が遅れており、陸の孤島と言われながら、県としてもどういった形で力を入れていくかということで、知事も問題点は良く分かかっておられて、力を入れていただいている。

高規格道路、都城・志布志道路であるが、来年の4月で、3工区同時に用地買収も進めながら出来てくる。県としても全力で力を入れていただいている。

その中で、非常に問題となっているのが、都城市と曾於市の境目で、ここが5キロある。瀬戸口県議と私と宮崎の徳重県議の3名で県庁の方にもお願いに行き、ここに何とか環境整備費は付いた。何とか用地費をつけてもらいたいということをお願いしている。

志布志までの港の3工区、そして宮崎県境の3キロ、そして鹿児島県側の2キロ。ここをいかに早く整備区間として予算化していくか。これによって国の直轄事業が動くということで、私どもも努力しながら早くこの大隅半島の活性化を進めていきたいと思っている。

### (吉永議員)

鳥獣被害対策についていろいろとお尋ねがあった。一昨年に議会に陳情も出されて、その陳情を議会で採択し、その後、「鳥獣被害対策議員連盟」を作り、一生懸命取り組んでいるところである。

産業経済委員会で、今年は屋久島に調査に行った。屋久島の猟友会の皆様は、非常に私はびっくりしたが、シカを1,208頭、そしてサルを1,268頭、撃っている。

ところが鹿屋では、私が市議会議員の頃、1匹サルを撃って尻尾を持って行ったら1万5千円払う制度を作ったことがあるが、「たたり」があるということで撃つ人はいなかった。地域を守るためには、猟友会の皆さん方にサルやイノシシの処分をしてほしいと思う。

今度の12月議会で、鳥獣被害対策についても私の方でも質問をすることとしているが、できるだけ御期待に添うよう努力したい。

## 県民 D

11月15日から狩猟期間が始まり、有害駆除もやっている。その際、猟犬を見つけるために付ける無線機のドッグマーカーが違法であるということで、困っている。許可が出るようにお願いしたい。

(鶴田議員)

無線の割当ての問題だと思うので、また後日、対応させて頂きたい。

## 県民 E

先ほど議長から投票率の話が出たが、なぜ、投票率が悪いか。老練な政治家がいなくなった、与野党ともに、国会議員も、こうするんだ！という政治家がない。若者よ、元気を出せ。(要望)

## 県民 F

警察の再編強化に向け、再編・整備立地計画の案が出ているようだが、これはどのような趣旨で行われているのか。また地域住民にはどう良くなっていくのか。

今少子高齢化というのが非常に進んでいるが、その中であって、3人、4人、一生懸命働きながら育てておられる方がおられる。こういう方に対して何かクーポンとかいろいろな手当とかできないのか。

(松田議員)

交番の再整備ですが、昨年度から取り組んでいるところである。駐在所に詰めていても夜動けない、動きやすくするというので、再整備ということに取り組んでいる最中である。

私が今住んでいる所は鹿児島県の西警察署管内であるが、そこでもいくつかの整備の案が出ている。上手くいった例で言うと、草牟田交番は2つあったのが統廃合されて1つの大きな交番で4人体制になって、結局24時間誰かがいる状況が作れた。今回の12月議会の文教警察委員会の中で具体的に審査されると聞いているので、それを受けて議論をしていきたいと思っている。

(西高議員)

今、松田議員が言われたのがいわゆる都市型というか、鹿児島市内とか大きな市の問題である。

私達のような小規模なところであるが、今までなかった夜型の犯罪が増えてきたということで、駐在所の再編を行いながら交通警ら隊を増やすというのが地方型の警察署の考え方である。

駐在所の再編をして、交通警ら隊を増やし、夜は駐在所がない代わりに地域を回って、鹿児島県警は特に農村部ではそういった形でやろうとしている。

私達のこの志布志署管内においても、夜の交通警ら隊は2台しか回っていなかったが、今回の駐在所再編を受けて3台回っている。24時間体制で3台の交通警ら隊が回っているという形である。

(大久保議員)

交番と駐在所の役割ははっきり違うものである。駐在所だと昼間は誰もいなくなってしまう。交番だと24時間地域の治安を守るため対応ができる。限られた人的資源を有効活用するためには、その配置を見直さないといけない。住民のライフスタイルが変わって夜の活動が多くなっている。夜の犯罪件数がやはり増えている。そうすると駐在所を減らして交番を増やした方が逆に犯罪への対応ができるのではないか。そのような見方で再編成することが出来ないかということは今検討しているところである。

この鹿屋においても、夜型の犯罪が増えているという状況で、交番の増強をしたいという要望がある。ただそうすると今まで横にあった駐在所がなくなる所も出てきたり、交番がある所がなくなったりとか。そのへんは地元としっかり協議をして、地域の要望ということも取り込みながら対応をしていく必要があると思っていますので、皆様方の御意見を取り込ませていただきたい。

(まつざき議員)

次の世代の子供達をどのように育てていくのか、増やしていくのかというのが地域においても、また国全体にとっても大事な課題だと思う。中でも子育て世代の若い人達というのは本当に雇用環境も厳しくて、給料も中々上がらない、経済的に苦しい。そういう中でどうやって安心して子供を育てていけるのかというと、そこは政治の責任として果たしていかなければならないと思っている。

鹿児島県議会としては、「政策立案・提言」の中で子育て支援ということも提言させていただいた。その中で一つは、県内のどこにいても安心して子供を産めるような環境を作るということ。

また、産んだ後、今度は今雇用環境が非常に厳しい、給料が上がらない、共働きをしないと暮らしていけないという中では保育所というのが一つの大きな課題となっている。

知事はマニフェストで、3人目の子供達の保育料を助成するというのを掲げており、そういうことも国の施策と合わせて進められると思う。

また、子供が具合が悪くなったときの医療費の関係であるが、これは全国でも各地の自治体で、子供の医療費を市町村が助成するというのをやっている。

県としては小学校入学前まで3千円を限度として、3千円を超えた部分について助成をするという仕組みが出来ているが、償還払いといって、一旦病院の窓口で払った後、2ヵ月ほどしてから返ってくる仕組みである。これでは、いざ具合が悪くなって実際に病院に連れて行きたいと思っても、財布の中身が心配だと、子供が熱があるけど様子を見よう、としてるんだと若いお母さん達が仰る。これが現物給付で戻ってくるのであれば、最初から払わなくていいということになれば、子育ての支援としても大きく役立つと思っている。

これについては、議員の中でも違う意見がある。

(藤崎議員)

今、まつざき議員が償還払いまで踏み込んだ話があったので、補足になるが、私も償還払い派であり、その立場で県議会でも発言している。

## 県民 G

大隅半島は皆さんご存じのとおり農業の地域である。農業大学校の建設のことであるが、旧金峰町に作られたが、どういう流れで、なぜ大隅半島に農業大学校をもってこれなかったのか。

(山田議員)

昔、農業大学校という鹿児島県の農業の試験的な施設を作るのにどこが良いかということで、一番大きな議論の中心になって、執行部もそれに基づいて行動した経緯というのを説明したい。

まず鹿児島県の農業試験場なので、県全体の試験場として、どんな試験研究をして、農業というものを根付かせていくには、どういう気温が良いかと。

今農業大学があるあの地域というのは、年間を通じて大体摂氏14度、こういう気温である。その気温を大体の中心に、農業というのは高い所から低い所まであるので、高い地域・低い地域の差というものを県の方でいろいろ検討をした結果、やはり吹上の金峰町というのが平均的な温度である、いろいろなものを作るについては、あそこがベストとは言えないが、いろいろな地域から総合的に判断して、あの地域がいいんじゃないかという議論があったということで御理解をいただきたいと思う。

## 県民 H

大隅半島は、基幹産業は農業である。それを支えていく農業後継者が農家住宅をつくる時に、県の許認可が非常に厳しくなっている。どうしても県議会で取り上げて頂きたい。農振除外、農地転用50メートル以内に3戸の住宅がないと駄目ですというその根拠はなにか。

特に畜産については、大型の畜産の施設を人家の中につくるわけにはいかない。ただ、その方にすれば、24時間管理をしないといけないから、畜舎の近くに自分の住宅をつくりたい。

また、畑かんの給水栓を設置してある所については、8年間は120%は駄目ですということできられている。いくら申請してもダメである。誰が見ても100点満点の農業後継者が、自分の住まいを、自分の土地につくれない。こんな不合理なことがどこにあるか。

### (瀬戸口議員)

ちょっと難しい問題である。農業者の代表ということで御指名賜ったところであるが、同じような相談をいつもいただいている。私も同じような気持ちで12月の一般質問でも取上げるために、今資料を集めているところである。たくさん農業されている方が苦しんでいるのは十分分かっているが、いわゆる農地法が段々改正され、平成10年、平成17年、国の方から厳しくなっている。都市部の農地を守っていく上で大事なことであるが、この過疎と農業をこれから一生懸命やっていくという方が、その地域に牛がいたり、野菜がある所に住宅が建てられないということは、合理性から見たときに、どうしても現場としては納得いかないことは当然であろうと思うが、農地法サイドで、別の観点からも、意見をさせていただいて所管省庁に届けながら、いわゆる若い方が一人でも多く住んで農業をしていただくような施策を提起させていただきたいと思う。

### (西高議員)

特に曾於郡は畑かんの問題があり、給水栓が立ち上がっていけば、工事が終わってから8年間は触れないというのが大前提にある。県としてこれだけのお金をかけたものに対して、家を建てさせないというのは分かっている。ただ、今言われたように、畜産農家の方は、今大型化しており、50頭以上いないと中々1年間生活できないというのが現状である。その中で事故牛が生まれたら非常に経営に響いていくということで、畜舎の近くに家を建てたいというのは、本当に畜産農家の一番切なる要望である。本日いらっしゃる方々にもそういうことを分かっていたいただきたい。本日、議長、副議長、そして各会派の皆さんがいらしているが、私と瀬戸口県議は同じ農家の代表であるので、是非今言われたことを、各会派、そして私達自民党に対しましてもお願いをし、県議会として意見を一致させた中で県にお願いができる、また力になるのではないかと考えているので、私の方からも議長、またどうか一つよろしくお願ひしたい。

## 県民 J

高速道路の話はよく出るが、私たち大隅の者は何の会があっても鹿児島に行かなくてはならない。この大隅から鹿児島の方に近道というか、橋でも架かったらと。橋が架けられるのか、架からないのか。その点を知りたい。

(桑鶴議員)

錦江湾横断ネットワークの調査を県がやっており、まもなくその結果が出てくると思っている。一方では、鹿屋の経済会を中心に、垂水などの経済会を中心に、昔から桜島横断架橋の実現を目指してさかんな運動が行われているのはご存じの通りである。

私どもも、もう数十年前から地方の企業やそれから学者、それからPFI協会というのがありますが、ここの皆さん方を招いて勉強会を開いて、桜島と鹿児島の間には橋が架けられないか、橋が架からなければトンネルはどうだ、そして費用はどのくらいなのか、あるいは爆発に伴う被害はどうか、台風の影響はどうか、それから景観に対する考えはどうか、これらの諸々の研究をさせていただいている。

また近く経済同友会の皆様方や、鶴田会長も一緒に知事部局に、その実現のための要請活動を行うことになっている。ただ、国の財政が、県の財政がこういう状況であることから、国の費用で公共的にこれを架ける、あるいはトンネルを掘るというのは、現時点では大変厳しい見通しであるが、ただ鹿児島県の横断交通ネットワークというのは、県政浮揚の一番大きな根幹をなすような事業になるので、何とか民間の活力を動員した形で、国と民間のタイアップするような事業の実現ができないのか、この可能性をこれからもしっかりと腰を据えてさぐっていききたい。

また、議員ともこの問題に関わる仲間作りをしっかりと果たしていききたいと思っているので御理解いただきたい。